

2015年のコメ需給見通しについて

二年続けての米価低落により、昨年は歴史的な低水準まで下落し、生産者にとり大変厳しい年となった。2015年に入り米価の下落は止まり一部ではやや持ち直しの気運も出ているが、このような米価でこのままやっていけるのか、将来どころか直近の経営にすら不安をもつ生産者は多い。今回の米価の下落は需給の崩れが原因となっているが、では、その現状及び今後の見通しがどうなのかを、主に農水省発表のデータをもとに考察してみたい。

右表は各米穀年度の需給状況だ。青で網掛けしたところは確定値となる。平成25/26年度は生産量818万トンに対し、需要量は787万トンにとどまり、大幅な在庫増が懸念されたところ、米穀機構により35万トンが買入れされ、期末(平成26/6月末)は220万トンとなった。平成25年半ば頃まで続いた

米需給実績及び見通し

(単位:万トン)

	平成25/26	平成26/27	平成27/28	自主的取組の場合 平成27/28
期首在庫	224	220	230	230
生産量	818	788	751	739
需要量	787	778	770	770
米穀機構買入	35			
期末在庫	220	230	211	199

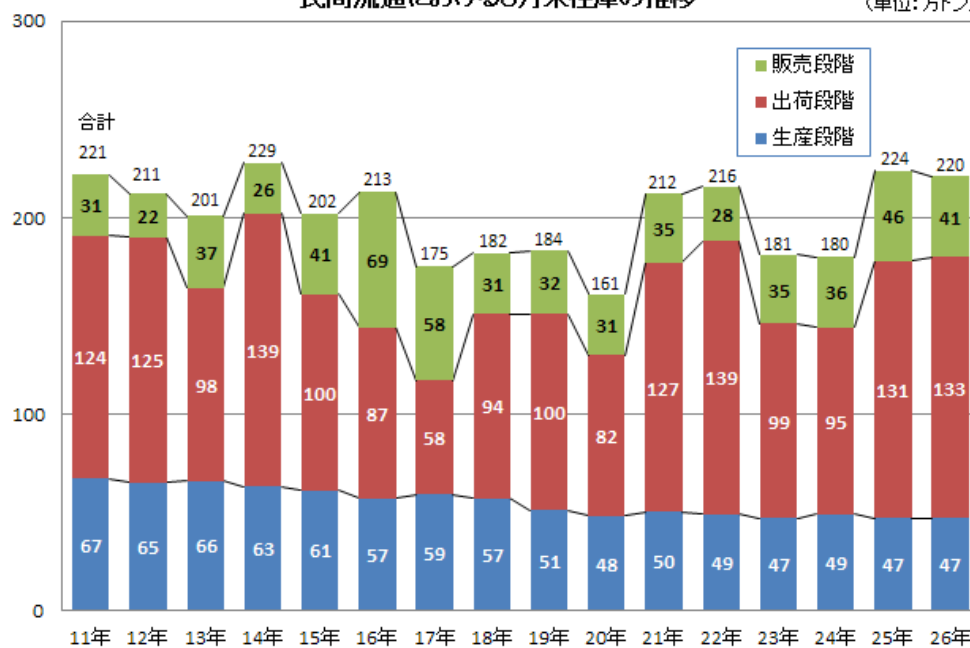
※年度は7月～6月

た高値により、実需者のコメ購入意欲が下がったのが需要量減退の主因である。平成26/27年度は期首在庫220万トンで始まり、生産量は作況101に基づき778万トンと発表された。一方需要減退は続くことから同時期の需要量は778万トンとみられ、26/27年度期末在庫は230万トンと推定されている。下表は平成25/26年度まで過去16年間の期末在庫推移である。これを見ても230万トンという在庫が相当大きいことがわかる。一方、それぞれの年の市況を考えると期末の適正在庫は200万トンを切ったところといえる。さてここからが見通しの考察だが、平成27/28年度で既に県毎に割り当てられている生産調整数量をもとに、仮に作況100とすれば、生産数量は751万トン、一方需要は減少要因をみると770万トンとなり、平成27/28年度末(平成28/6末)在庫は211万トンで、これでも適正と

切ったところといえる。さてここからが見通しの考察だが、平成27/28年度で既に県毎に割り当てられている生産調整数量をもとに、仮に作況100とすれば、生産数量は751万トン、一方需要は減少要因をみると770万トンとなり、平成27/28年度末(平成28/6末)在庫は211万トンで、これでも適正と

民間流通における6月末在庫の推移

(単位:万トン)



(出典:農水省)

(次ページへ続く)

いわれる200万トンを超えている状況。そこで注目されるのが、生産調整とあわせて発表された自主的取組の制度で、その各県毎参考値を合計すると739万トンの生産量となり、27/28年度末在庫は199万トンと200万トンを切る予測が見えてくる。4月末の情報でも、既に31都府県で生産調整の目標を達成見込みであり、その内約半分が自主的取組参考値も達成できる見込みとのこと。需給改善に向けて行政の真剣な取り組みが伺える。もう一つ忘れてはならないのが、平成26/27年度で一部地域での天候不順により、多くの篩下/青死米が発生したことだ。農水省の昨年末段階での情報でも、例年に比べ、最大で20万トンの篩下/青死米が発生したのではとのこと、例年以上の発生は残念なことではあるが需給改善の要因の一つとなるかもしれない。既に関東・東北では田植えのピークも過ぎ、作業的には一段落したが、今年の天候がどのように推移するのかも含めて、状況を注視していきたい。

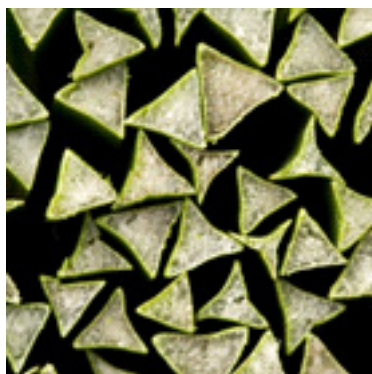
知る人ぞ知る柔道畳 「七島藪」

元来、琉球畳で使用される七島藪(シチトウイ)は、その茎の断面が三角形であることから「三角イ」とも言われ、2m近くまで成長する植物だ。江戸初期に豊後の商人がトカラ列島で栽培されていた琉球イを持ち帰り普及させたのが始まりとされている。その後日本各地で栽培されたが平成5年以降は大分県のみでの栽培となり、現在では県内でも国東市だけが唯一の生産地となってしまった。田植えは5月頃、約80日で成長し7~8月の刈取り時期には180cm程まで成長する。苗が不規則なため機械での田植は難しく、手作業で植え付ける。

イ草(イグサ科)とは種が違いイネ目カヤツリグサ科の植物でイ草に比べて摩擦強度が5~6倍、耐焦性も2倍以上あることがわかっている。江戸時代、庶民はイ草畳の使用を禁じられ藁やカヤで出来た筵(むしろ)を使用していたが、色つやが良く肌触りの良い七島藪の敷物が多く使われるようになり、その耐久性の良さから東京オリンピックまでは柔道畳としても全国各地で使われていた。昭和32年頃は畳にして年間500万枚もの七島藪が関東以北を中心に出荷されていたが、栽培や製織の機械化が出来ず、現在では2,000枚程度しか出荷されていない。

栽培に手間を要すること、希少価値からイ草畳に比べると高値で販売されているが、耐久性の良さ、風合いなどが評判で首都圏を中心に需要は旺盛である。(福岡支店)

資料提供: くにさき七島藪振興会 (URL <http://shitto.org>)



1本1本の断面が三角形になっている



必要な長さに切りそろえた七島藪を束ねる。この束2つで一枚分の畳表ができる



刈り取った七島藪は、選別されて分割機で2本に割く。七島藪そのままでは、太すぎて畳表にできないことと、2本に割くことでこの後の乾燥をし易くする。この分割作業で割かれた不整形な断面が七島藪の特長とも言える風合いを生み出す。

まだ5月だというのに、30度を超える暑い日が続いています。雨不足により作物にも影響が出始めていますので、作物を育てる方にとっては一日も早い梅雨入りを願われていると思います。今年は梅雨入り、梅雨明けが遅くなるとの予報が出ていますので、この先は注意が必要です。

編集事務局: 南部、助川

電話: 03-5275-5511/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>